

はい！

男と女が共に歩むための情報誌

Hi, あきしま

vol.34
2012.10



特集

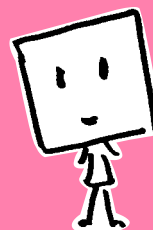
昭島のキラリ☆ウーマン!
職場の極意(清少納言の時代)

- 男女共同参画豆知識
メディア・リテラシー
- 未来のオリンピック選手に訊く!!
～昭島からメダリスト、誕生なるか!?～

BOOK GUIDE

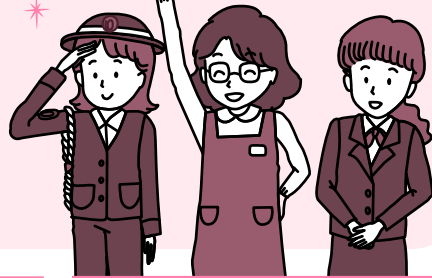
『フェミニズムの害毒』
『父子家庭が男を救う』 ほか

コラム どうなる? 五輪に見る可能性



ラリ☆ウーマン!

とはありません。
 の持ち方でもあるような気がします。
 楽しむ女性たち!
 たちにお話をうかがいました。



関 あゆみさん
 フォレストイン昭和館
 ブライダル課長

私が昭和館のブライダル課に就職したのは、1998年5月で、まる十四

年になります。元々人と接することが好きで、同じサービス業でも、販売目標のようなノルマのあるものよりも、ホテル業のような「心のサービス」といいますか、見返りを求めないホスピタリティを提供できるようなサービスを求めて就職しました。

ホテルというものは、異空間なのだと思います。少しお洒落して出かけたいたとか、ふだん履かない靴を履いて出かけるなど、日常的ではないこの空間そのものが好きなのです。

ブライダル業は、今や

ブライダルコーディネートやブライダルプランナー等を目指す人も多く、女性スタッフの多い、女性には働きやすい職場です。結婚式というところ新婦がメインなので、同性ということで、いろいろな気持ちに共感できるからです。

メイクやドレスといったものは、男性にはなかなか分からない部分が多くあると思います。



いますので、女性にとってはもってこいといえますか、自分の力を発揮できる職業だと思っています。

今は結婚式をとりおこなわない方たちも多くなりましたが、結婚式は「感謝を感じられる日」であり、「今までにあまり感じていなかった思いに気づかされる日」でもあります。初めは乗り気でなかった方々も、ほぼ百パーセント近く「やってよかった」とおっしゃいます。

私も、結婚式が終わっても遊びにきて下さった「担当してもらってよかった」「記念の場所になった」などの感動のお手紙をいただいたりしたとき、とてもやりがいや達成感を感じます。

また、仕事が充実しているからこそ、プライベートも有意義に過ごせるように思います。休日は休息もとりますが、趣味のバイクやバレエストレッチをしたり、まとめ

った長い休みには夫とツーリングに行くなどしたりして、公私共に充実しています。私は昔から結婚しても働き続けたい、社会と関わりを持ちたいと思っていました。過去にはアルバイトやパート勤務のような経験もありますが、雇用形態は問わず、働くことが大切だと思っていますし、やはり自分にとって思う存分働ける職場が理想です。

働く限りは第一線で働きたい。人に遠慮しながら働くというよりは、自分の意見も言えて働ける方がずっといいと思います。

女性も結婚して子どもが生まれるからといって仕事を辞めずに長く勤め、たいへんかもしれないが子育てしながらでもまた復帰して、働く喜びを感じて欲しいです。

働いて得る達成感や充実感、逆に失敗してしまう挫折感も、全て人生の大きな糧になると思うのです。今の若い女性たちにも、ぜひ何かしら仕事を続けていって欲しいと心から思います。

覚えて、仕事が出来ようになりました。昔通信教育でミシンを習っていたことも幸いでした。



若林 とき子さん
 光明工業を夫婦で経営、
 昭島市商工会女性部常任委員
 として活躍

バブル崩壊後は、仕事が減って心配な時もありましたが、この仕事を辞めたいと思った事は一度もありませんでした。仕事が減った時は、近所にビラを配って宣伝活動をして、いろいろと仕事を盛り立てる為の努力をしました。仕事をあきらめて辞めてしまうのは嫌でしたし、この仕事を何とか

繋がりが好きで、故郷の県人会や、子ども

見つけた時などは、本当に嬉しいものです。

自営業なので、仕事とプライベートとの時間を特に分けてはいません。プライベートが無いと言えそうなものかもしれませんが、最初からそうだったので、大変だと思ったことはありませんでした。夫婦で同じ仕事をしているので、いつも夫と一緒にいるのが当たり前です。二人で協力し合っていて、仲良く仕事をして、休みの日も夫婦で出掛けたりします。最近では、近所に住む孫達と一緒に出掛けるのが、楽しみの一つです。

特集 昭島のキ

楽しく、生きがいを持って仕事ができたら、こんな素敵な「仕事は大変で、つまらないもの…」でも、それって気持ち仕事の中に楽しみを見つけて、生き生きと仕事と生活をそんな、キラリと輝きながら仕事をされている、昭島の女性

島津 くみさん
昭島警察署 強行犯捜査係長



私が警察官を職業に選んだのは、公務員は安定しているということもありますが、人の役に立つ仕事でした。たということが一番の理由です。

警察官の採用試験に合格し、府中にある警察学校で法律や術科と呼ばれる

結婚した夫の家が自営業を営んでいましたので、私も夫と一緒に仕事をやりたいと思ったのがきっかけでした。

うちの仕事は特殊な仕事で、多種椅子・飛行機のスチューデス専用の椅子等、ちよつと変わった形をしている、特

殊加工が必要な椅子の内張りをしています。椅子の内張り仕事は、力仕事もありますので、腕力がないと一苦労ですが、私は手先を使う細かいミシン作業が得意でしたので、仕事で使う工業用ミシンの使い方を自分で



が小学生だった頃のクラス役員のお母さん達とは、十五年以上経った今でもみんなで集まっています。そういつた人との繋がりが、自分の力に繋がっているのだと思います。

仕事がある意味で特殊ですので、下町では辞めてしまう方が多いようです。自営業で同じ職業の方は数少ないですし、大変な事もありますが、椅子が出来上がった時の喜びや、飛行機の中で自分の作った椅子を

仕事をしながら、子育てもしましたし、今は同居をしている義母の介護をしています。近所に住む孫の面倒をみることもありますが、女性が仕事と家事と子育てをこなしていくことが、どれだけ大変なことかはよく分かります。それぞれ家庭の事情もあると思いますが、出来ることでしたら、子どもが二・三歳の手が掛かる時期は子どもの傍にいてあげて欲しいと思います。女性に働いて欲しいと思う男性の気持ちも分かれますが、家事と子育ても仕事として見て欲しいですね。

柔道・剣道・合気道などの授業を受けました。術科は警察官である限り必須項目で、必ず一つ選択しなければなりません。私は、その中から合気道を選びました。関節技と相手の力を利用して戦うという合気道の特性が力の無い私に合い、気に入ったからです。

現在、刑事課に在職する警部補として働いています。

係長として、日夜仕事に追われていますが、仕事の中で性的被害にあった女性の話を聞くことが多数あります。性的被害はとてもデリケートな難しい問題ですから、他人には話にくいものです。私が女性であることから、女性同士、話をしてもらえることがあります。

警察官になった平成十五年頃は、女性はまだ交通課からスタートするのが一般的で



した。現在は、男女とも「地域課」という交番勤務からスタートするようになりました。『男女共同参画』という点では象徴的な出来事です。同僚から男女差別的言葉を聞いたりはしませんが、交通違反をした一般男性に「女のくせになが分かる!」と腹立ち紛れに言われたときなど悔しい思いをしたこともあります。しかし、そういう罵詈雑言をあびせられても、ひたすら納得させるためには、話をしていくしかないと思っています。

警察官は朝昼晩がないように忙しいイメージですが、何時もいつも事件があつて忙しいわけではありません。時々ですが、五時十五分過ぎに、署を出ることがあります。そういう時には、家では何もせず、ボーっとして過ごしながら、好きな東野圭吾さん

の推理小説などを読んでいます。しかし、六日に一度は泊まりがあるので、その時はほとんど仮眠してられないほど、なかなかやと事件や事故が起こるため、緊張の連続です。

仕事があまく進まなかったり、自分の思う方向に行かないときなど、正直言って、やめたいなと思うこともありましたが、しかし、仕事をしていると、被害者の女性から「話してよかった」と感謝されるときがあります。「刑事を続けていてよかった」と思う一瞬です。

これからの人に伝えたいことは、仕事は楽しいことばかりではありません。つらいこと、大変なことの方が多くと思います。しかし、あきらめたりしないで、励みになるところを仕事の中に見つけて、目標にまっしぐらに進んでほしいと思います。大変だとは思いますが、仕事は家庭を持った後でもずっと続けていきたいと思っています。

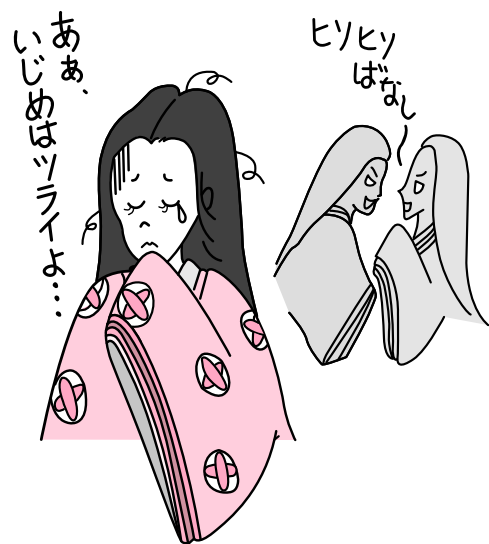
今も千年前もキャリアウーマンは人間関係に悩んでいました。

働くことって本当に大変！ 時には気にしない・気にしないの鈍感力も必要です。

平安時代は女房達が盛んに執筆活動をして「女の時代」といわれるが、いつの世も仕事となるとそうそう甘いものではない。

女房というのは、貴人に仕えて、その人の話し相手をしたり、来客の応対をしたりするのがおもな仕事だった。わたし達が考えるよりずっと気骨が折れる仕事だったようだ。女房は高貴な貴族の家ではみな雇っていたが、宮廷に娘を后として出している家では、その娘に、権力と資産に応じて女房を雇った。このとき選ばれる女房は、中流貴族以上の家柄の娘であること、和歌が多少なりとも詠めること。この二つの条件には最低かなわなくてはならなかった。

清少納言は中宮定子に仕えたので、その職場は内裏だった。内裏は帝とその后達の住まいだが、それを取り囲んで役所があった。内裏を含めてすべて



を大内裏という。その大きさはちょうど昭和記念公園に匹敵する。そこに一万人もの人が勤めていた。女達も当然たくさん働いていた。その女たちの職業の中で女房はエリートだ。何しろ殿上が上がって、そこに寝起きしているのだから他の職業の女達とは一線を画する。

清少納言が仕えた中宮定子は最盛期には五十人も女房を抱えていた。五十人も女ばかりがいるとなかなか大変だ。職場の人間関係での悩みはつきなかつたらしい。よく聞く職場の人間関係の難しさは古今を問わず同じだ。出仕してきた初めのころはつやつやとした髪が、一・二年も経たないうちに抜け落ちた若い女房もいたそう。

清少納言は宮廷生活を謳歌した人だから、それほどストレスもつらさもなかったかもしれない。謳歌するためには身に着けていなければならぬ極意があった。それは「悪口を言うのも、言われるのもお互い様。言われたからといってなんで怒るの？ ワツハツハと笑ってやりすごすよ」

そうやって清少納言はがんばっていたけど、中宮定子が没落し、内裏を追われる頃、思いもかけない噂に悩まされる。敵方と通じているというのだ。噂だけならともかく、女房達はヒソヒソ話をし、清少納言が通じかかるとパツタリと話をやめる。あるいは清少納言の姿が見えるとスーッと隠れるという



悪口なんてお互い様よ!

いじめをした。五十人も女房がいると中にはいやなことをする人もいる。清少納言はついにたまりかねて、自分の里に戻ってしまった。

それからしばらくして、「もう一度中宮のもとにお戻りになりませんか」という誘いの使いがやってくる。中宮定子のわびしい住まいとわずか十数人になった女房達の話を聞き、心が動くが、自分が受けた仕打ちを思わず使いの者に話してしまう。「わたしは何も思っていないのに、あの人たちがわたしのことを嫌いみたいですから」使いの者は「おいらかに（まあ、まあ落ち着いて、落ち着いて）」と言って微笑んだ。

清少納言はそれで再び出仕するようになるのだが、昔も今も職場の人間関係のわずらわしさは同じことのようなのだ。そんなとき、清少納言を思い出そう。「悪口はお互い様。なんで怒るの？」それでも落ち込んだときは「おいらかに」もおいらにも」と呪文を唱えてみるとすっきりするかもしれない。

Hi, あきこちゃんの男女共同参画マメ知識



Takako

ねえ!
メディア・リテラシーって
知ってる?



うーん、
リテラシーは最近よく聞くけど、
メディア・リテラシーって
いったい何のこと?

メディア・リテラシー

新聞・テレビ・インターネット・出版物などの情報メディアを主体的に読み解いて、
必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、活用する能力のこと。
情報を評価・識別する能力。

例えば、
男女平等からみて、
メディア・リテラシー
の不安は…



歌謡曲では…



雑誌では…



やっぱり
ムキムキにならないと
モテないのかな～



なんだか
情報によっては、考え方を
操作されちゃうことも
ありそうで心配になってきたな…

そうなのよ、
メディアから流れてくる
情報を全てうのみに
すると、ちょっと大変な
ことになりそうなの



新聞では…



テレビでは…



君作る人～
ボク食べる人～
彼のために
作る人にならなくちゃ
ダメかしら

。。。など、
など

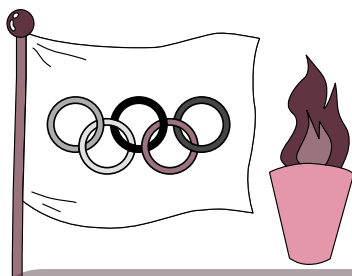
だから、流れてくる情報は、そのまま受け取るだけではなく、
自分で正しいか、間違っているかを判断して、
情報を選んで、使いこなしていく力が必要になってくるのよ!



昭島市では男女平等の視点に立ったメディア・リテラシーの普及に努めます。



様々な情報を見極める目
を持つためにも、ぼくたちが賢くなって
子どもたちを間違った情報から
守っていきたいね!!



未来のオリンピック選手に訊く!!

～昭島からメダリスト、誕生なるか!?!～

質問項目

- 1) 名前(学年)
- 2) 始めたのはいつから?
- 3) 戦績を教えてください
- 4) ロンドン五輪を振り返って思うこと
- 5) 好きな食べ物
- 6) 好きな言葉
- 7) 憧れの選手、有名人
- 8) 将来の夢、目標
- 9) 昭島の好きなところ、またみんなに言いたいこと
- 10) ずばりあなたにとってサッカー／テニスとは?
- 11) ご両親／担当コーチから一言!

この夏は暑かったけれども、なんといってもロンドン・オリンピックが熱かった。一生懸命戦う選手たちの姿に、多くの方が勇気や感動をもらったのではないだろうか。

メダル獲得数は、史上最多の38個。なかでも、レスリング、サッカー、柔道、卓球、バドミントン、重量挙げ等、日本女子の活躍に大いに盛り上がりを見せました。

そこで、昭島市内の気になる未来のオリンピック選手2名をご紹介します。

堂々の銀メダルを獲得したサッカーなでしこジャパンと、日本テニス史上初のベスト8という快挙を成し遂げた錦織選手にちなんで、女子高生のサッカー選手杉原遥波さんと、男子中学生のテニス選手安藤誠淑さんです。将来世界で活躍することを夢みて日々がんばっている、若きお2人に直接質問をさせていただきました。



安藤さん

- あんどう まさとし
- 1) 安藤 誠 淑(中学1年)
 - 2) 5歳。
 - 3) 2012東京中学テニスダブルスベスト16。
 - 4) テニスの錦織選手は日本人の中でも背丈が大きいのに、上背がある外国人選手と対等に戦っていたので、自分にもできると思った。
北島選手が4位でも、「諒がメダルを取ってくれた。悔いはない」と言ったことが後輩思いで素晴らしいと思った。
将来は自分も国を代表して戦う重みを感じてオリンピックに出場してみたいです。
 - 5) ラーメン、果物全般(特にメロン)、すし、焼き肉。
 - 6) 努力はウソをつかない。
 - 7) アンディー・マレー選手、川越シェフ。
 - 8) プロテニスプレーヤー(テニスが上手なだけではなく、プレーでみんなに感動を与えられる選手)。
 - 9) 水がおいしい。昭島最高!
 - 10) 青春。生きがい。欠かせないもの。
 - 11) 普段はみんなの場を和ませるお調子者?でもテニスに対しては真剣そのもの。
朝早くから夜遅くまで彼ほど努力している生徒はいません。このまま努力を続けて昭島、いや日本を代表する選手に羽ばたいて欲しいと思います。(昭和の森テニススクール 岡川正樹チーフコーチ)

2012ロンドンオリンピック

日本の獲得メダル数

(国別ランキング6位!!)

金	7	●●●●●●●
銀	14	10 ●●●●●
銅	17	10 ●●●●●●●

- すぎはら はるな
- 1) 杉原 遥 波(高校1年)
 - 2) 小学4年生。
 - 3) U15全日本女子エースサッカー選手権大会優勝、USAウィークエンドトーナメント優勝他。
 - 4) 最後まであきらめないという気持ちが大切だ!ととても感じました。私もその気持ちを忘れずに頑張りたいです。
 - 5) ハンバーグ。
 - 6) ありがとう。
 - 7) 長谷部誠選手、メッシ選手。
 - 8) 将来オリンピックに出て金メダルを取ること。高校でレギュラーでいられるようにしたい。
 - 9) 穏やかなところ。
サッカー選手になれるよう頑張るので応援よろしくお願いします。
 - 10) 私のすべて。
 - 11) 健康でケガもなく、元気で過ごしてもらおうのが親にとって一番の喜びです。その中で本人が夢に向かって全力で頑張っていくことをサポートしたいと思います(母)。



杉原さん

8月に行われたロンドン五輪。史上最多のメダルを獲得した日本選手団の活躍に、胸を熱くした方々も多かったのではないだろうか。

日本が獲得した金メダル7個のうち、4個が女子選手。メダリストの延べ人数も女性が大半を占めた。メダリストたちの凱旋パレードには50万人規模の人々が祝福にかけつけ、観衆には女性の姿が多く見られた。昨今の「女子力」の勢いを見るようである。

中でも、一際大きい歓声を集めたのが女子サッカーの「なでしこジャパン」。ロンドン行きの便ではエコノミークラスしか手配されず、男子のビジネスクラスとの「格差」が問題となった。それを見返すような活躍で銀メダルを獲得し、帰国便は“ようやく”ビジネスクラスに昇格された。

こういうケースは、日本社会で女性の置かれている状況に多く見られるのではないだろうか。実績も能力も申し分ないのに、なかなか認められない。昇給や管理職への登用など男性に比べて報われにくい例は数多い。

一方、「なでしこジャパン」を破って金メダルを獲得した米国では、女性の社会進出が比較的進んでいる。その米国のキャリアウーマンの間で最近、ある論文が話題になっているという。

そのタイトルは、「なぜ、女はいまだに全てを手に入れないのか」。米政府高官で外交政策を担当していたアン・マリー・スローター女史が記した。現在は大学教授へ転進し、同じ大学の教授である夫との間に2人の息子を持ち、経済的に恵まれた家庭も築いている。傍から見ると、仕事と家庭を両立させ、成功した女性に見える。そんな彼女が論文の中で辛らつに現代社会の問題点を指摘している。

まず、政府高官の職を辞めたことについて、「長時間にわたる激務の日々で、子育てとの両立が困難になったから」

と理由を述べ、現在の米国社会や経済の構造では「仕事と家庭の両立は不可能」と断じている。

アメリカでは1960年代以降、フェミニズム運動や公民権運動が盛んになり、女性の社会進出が進んだ。その一方で、男性との厳しい競争の中、「家庭も大切にしたい」という気持ちを出しにくい空気が醸成されてきたという。

論文ではさらに、長時間勤務を見直し、柔軟な働き方を認める社会が提唱されている。政府高官の職を辞め、家族との生活を選んだスローター女史の言動は、フェミニズムやワークライフ・バランスなどの議論に一石を投じている。

ところで、このようなスローター女史の指摘は、女性にだけ当てはまるとは限らない。男女を問わず、必死で働いているうちに、いつの間にか時間だけが過ぎていっていると感じている人も多いのではないかと。そして、ふと、「仕事だけではハッピーにならない」と感じる瞬間が来る。

そもそも、何かを得るためには何かを犠牲にすることは避けて通れない。例えば、経済的な成功や出世などの名声を得よう

として他者との競争に明け暮れると、家庭を顧みる余裕はなくなっていく。このような状況が続くことで、社会には閉塞感や疲弊感が蔓延していくのではないかと。

さて、ロンドン五輪での日本はサッカー、バレーボール、卓球、アーチェリー、フェンシング、体操、水泳など団体戦での活躍が目立った。チームワークにより力を発揮するのは、日本人の得意とするところだろう。まさに、これこそが社会に蔓延する閉塞感や疲弊感を打破する力になるはずである。個々の力ではなく、日本人が得意とするチームワークを生かし、家族や地域がまとまって絆を強くすることで、メダリストたちのような笑顔あふれる社会を形成していきたいものである。その可能性を感じさせる五輪の夏であった。

T.H.

コラム どうなる？ 五輪に見る可能性



11月12日～25日は 女性に対する暴力をなくす運動週間です

DV(ドメスティック・バイオレンス)や性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為などの女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものです。

国では、11月12日から25日(女性に対する暴力撤廃国際日)までを、女性に対する暴力をなくす運動期間と定めています。この機会に、女性に対する暴力について考え、暴力のない社会づくりを進めましょう。



男女共同参画セミナー

「DVのメカニズムと子どもへの影響」

講師：松本 和子さん

NPO法人女性ネットSaya-Saya代表

日時：平成24年11月16日(金)

午後1時30分～3時30分

場所：昭島市保健福祉センター(あいぽっく)視聴覚室

定員：30名(申込順)

保育あり(2歳以上の未就学児5人、申込順)

申込：企画部企画政策室 TEL 042-544-5111(内線2373)

10月17日(水)より電話で受付しています。

